

14 け せん ぬ ま
気仙沼

(宮城県気仙沼市)

注目ポイント！

日本初の「スローフード都市」宣言が、多様な広がりを見せる。
漁村と山村、地方と都市、地道な活動の継続が交流の和を広げる。



夏期の入り込みを中心に観光客数が約181万人から約221万人に増加！
(平成7年) (平成16年)



気仙沼の風景

コラム

理事長の菅原さん。市内で伝統のある造り酒屋を営んでいる。新幹線や高速道路の拠点から遠く、仙台までの所要時間は2時間半。このため、未来のふるさとを思い、気仙沼の豊かな食の恵みを活かし、各地との結びつきを強め、真に豊かなまちづくりに取り組んでいる。



スローフード気仙沼
理事長 菅原 昭彦氏

これまでの経緯

- 平成 元年(1989) カキ養殖業者を中心とした「牡蠣の森を慕う会」と水源の山村地区住民の協働による植林活動を開始する。
- 平成 8年(1996) 東京都目黒区のイベント「第1回目黒のさんま祭り」にさんまを提供する。
- 平成13年(2001) 「食のまちづくり協議会」を設立する。宮城県「おいしい地域づくり事業」指定。
- 平成15年(2003) 日本初の「気仙沼スローフード」都市を宣言する。

主な取り組み

海と森の交流

旧唐桑町のカキ養殖業者が中心となり「牡蠣の森を慕う会」を結成。水源地の隣県室根村の植林を毎年継続。山の子供たちに海の養殖作業を見学させ、森と海と生き物との関係を体験学習。森林の保全や環境保護の意識を醸成。



植林時の様子

地方と都市の交流

東京都目黒区の「目黒のさんま祭り」が恒例化。生産地の宣伝から始まったが、自治体同士の交流に発展し、同区内の修学旅行生を受け入れ、水産加工や養殖作業の体験を実施。体験メニュー化の取り組みは、地元の漁業関係者やNPOが主体となって実施。



さんま祭り

日本初「スローフード都市」宣言



気仙沼魚市場

気仙沼の「スローフード都市」宣言の精神とは、料理そのものだけに興味を持つのではなく、生産から口に運ばれるまでの過程についても思いを巡らし、生活の中で育まれてきた食を次世代に伝え、個性的で魅力あるまちづくりをしようというもの。多様性を認めあい、心豊かな人間性を育み、自然と調和する住みよいまちにしていくことを願うものである。

気仙沼のブランド化

商工会議所が中心となって、フカヒレに代表される「気仙沼」製品のブランド化に取り組むとともに、子供たちによる「プチシェフコンテスト」を通じて地域ぐるみで「食」の重要性を醸成。



プチシェフコンテスト

問い合わせ先

気仙沼市産業部観光課

Tel : 0226 - 22 - 3438 <http://www.city.kesenuma.lg.jp>

スローフード気仙沼(気仙沼商工会議所内)

Tel : 0226 - 22 - 4600